令和５年度　学校評価表

土成中学校

項目	具体的努力目標	自己評価 達成状況など	4段階評価	改善策など	4段階評価	学校関係者評価 ご意見
①豊かな心の育成	○人権教育の徹底 （いじめのない学校）	◯人権学習を通して、自分の行動や価値観をみつめ、自分の生き方について考える機会を設けることができた。 ◯各学年で講師の方を招き話を聞くなかで、自分自身の行動と照らし合わせて振り返ることができた。 ◯今年度は阿波市人権教育研究大会の会場校でもあり、各学年で計画的に取り組んだ。特に各学年2回ずつ行った研究授業は事前の教材研究や校内研修を通して、教職員の資質向上を図ることができた。	A	○アンケートで「自分っていいなあと思えるとき」として周りとの関わりに関することの割合が低かった。周りとの関わりのなかで自分自身が成長し、自己有用感を高めていけるよう引き続き人権学習に取り組む必要がある。 ○人権課題を自分の問題としてとらえ、かつ自分の生活をより良い方へ活かしていける取組をさらに進めていく。 ○毎月の生活アンケートや校内巡視などを利用し、生徒の実態把握に努め、生徒が過ごしやすい学校づくりに今後も取り組んでいく。	A	○今後も人権学習に継続して取り組んで欲しい。 ○先生と生徒の対話を増やして、相談しやすい環境作りへの努力が大切。 ○SNSによるトラブルも心配だが、SNSを使った悩み相談など、うまく活用できればよいと思う。 ○携帯電話などを持たせるならば、家庭でルールを作って欲しい。 ○不登校対応について、不登校の要因や人員の不足など、課題は様々だとは思うが、今後も子どもに寄り添ったきめ細やかな対応をお願いしたい。
	○道徳教育の推進	○「特別の教科　道徳」に対する教師の意識も生徒の意識も高まってきた。 ○今年度は試験的にローテーション道徳を取り入れた学年もあり、これまで以上に学年団が同一歩調で授業作りに取り組むことができ、生徒にも概ね好評であった。	A	○授業力の向上をめざした研修（研究授業・授業研究会）を引き続き行う。	A	
	○生徒指導の充実	○私にはよいところがある。と答えた生徒が11％増えており、自己有用感が高まっていると考えられる。 ○教師間の共通理解に基づく生徒指導においては、各学年共に学年主任を中心に決定したことは指導できた。 ○生徒指導体制においては、共通理解のもとに複数の教員で生徒指導にあたれた。 ○休み時間など、できる限り生徒の中で教師が過ごす時間を多くとり、生徒の様子を知るとともに、生徒との対話を増やすことに努めた。 ○生徒指導委員会を実施し、各学年の課題について改めて確認するとともに学校としてどのように取り組んでいくかを話し合う場を設けた。またその内容を元に職員間で共通理解を図り、対応策を講じた。	A	○教師の指導のもとに生徒会の挨拶運動や専門委員会の服装検査、自転車点検を継続し、生徒自らが主体的に取り組む活動を継続させていく。 ○生徒観察や生活アンケート、生活記録から生徒の変化を捉えて、積極的な生徒指導の徹底を実践していく。 ○学年単位だけでなく、教師間の会議や連携で積極的な生徒指導を実践していく。 ○日々の学校生活や教育活動等の中で、人間関係を深めながら生徒に寄り添い、今後も悩みを相談しやすい雰囲気を作っていく。	A	
②特別支援教育の充実 確かな学力の育成	○基礎的・基本的な知識・技能の徹底	○基礎・基本的な学習内容には、意欲的に取り組める生徒が多く、学びに対する意欲が見られた。 ○自分の課題を見つけ取り組むことができる生徒が少ない。 ○「読書の習慣」「家庭学習の習慣」の項目では、保護者がそれぞれ36%と56%、（昨年　39%と55%）、生徒がそれぞれ48%と63%（昨年　52%と73%）と下がっている。 ○生徒アンケートでは授業への取り組みや理解、自身の努力についてはいずれも肯定的な評価が80%を越えている。	C	○学力の定着には欠かせない家庭学習の意義指導なども含め学習習慣の定着を図る。 ○個に応じた指導とアドバイスを行うようにする。 ○自分の課題を見つけ、その解決に向けて調べたり、学び合ったりしながら主体的に取り組めるように実践していく。 ○委員会活動を更に充実させるとともに、家庭読書の日の設定などについて協力をいただく。	B	○職場体験学習について地域で事業を営む者として子どもたちに関われることを楽しみにしている。また、受け入れる側として、充実した内容にするために、事業者に求められることや課題、子どもたちが求めているものなどを事前に教えて欲しい。 ○支援学級在籍生徒数の割合が高いことに驚いた。生徒や保護者のニーズに応えるため、支援員の配置など、必要な施策が必要。
	○キャリア教育の推進	○各学年とも、キャリア教育推進計画に基づいて、進路指導を総合や学活の授業を利用して取り組んでおり、生徒も将来についての考えを家庭で話している。「ご家庭では、お子様と進路や将来のことについて話をしている。」という項目では、昨年度89%から今年度90%へと引き続き高い水準である。	B	○職場体験だけでなく、地域や社会と連携して、生徒が進路や将来について考える機会を授業の中で設定する必要がある。 ○キャリアパスポートの活用に向けて共通理解を図る。	B	
	○総合的な学習の時間の充実	○今年度は体験学習にも積極的に取り組み、ゲストティーチャーを招いての講話や、職業体験を行い、事前・事後の活動も含め、生徒自身も楽しんで学習に取り組むことができた。また学年便り等を通じて家庭への発信にも務めた。 ○地域のことや将来について調べ学習を行うことで、生徒たちの自己認識を深める機会を設けることができた。	B	○他教科や学校行事との関連を考えて、総合的な体験学習の実施計画を立てる。 ○生徒の興味・関心に基づく内容等、主体的に活動に取り組める学習内容にする。	B	
	○特別支援教育の推進	○学級の連絡ファイルや帰りの会等で、保護者や生徒とのコミュニケーションを取ることができた ○個別の指導計画で、生徒に関わる多くの教員がその生徒の特性を考えて指導の目標を立て授業に臨むことができた。教員の情報共有としても利用することができた。 ○支援学級担任者会を学期に1～2度ほど開き、それぞれの支援学級の状況や、特に配慮の必要な生徒の対応等について、情報を共有することができた。 ○支援学級に在籍する生徒の数が増えたこと、個別の対応が必要な事例が増えたこともあり、教師の「特別支援学級の充実が図られている」の項目は令和3年度の95%から令和4年度85%、令和5年度84%と若干下がっている。	B	○生徒一人一人が、授業の中で達成感を味わうことができる支援を行う。 ○交流学級での生活を通して、多くの人と共に活動する楽しさを味わうことができる支援を充実する。 ○生徒個々に対して、可能な範囲での支援を実施し、関係機関との連携も行いながら、生徒の基礎学力や自立の支援につなげる。 ○支援学級担任者会を継続して開催し、担任同士の連携を強めていく。また、必要に応じて管理職や交流学級担任にも会議に参加してもらう。	B	
③健やかな体の育成	○食育の充実	○放送委員会と連携を図り、食に関する啓発活動を継続することができた。 ○栄養教諭による出前授業を実施し、食に関する知識を深めることができた。 ○文化祭での食に関する保護者アンケートや展示を今年度も実施した。	B	○関連教科でもより一層食育に関する学びを深め、家庭での生活を振り返る必要がある。 ○引き続き栄養教諭と連携をとり出前授業を実施していく。	B	○避難訓練の実施と、実際に被災したときの教育環境の維持をどのようにしていくかが、今後の課題。 ○生徒の肥満率が高いことについて運動機会の減少もあるが、、生活リズムや食事など、家庭の協力も必要。
	○健康・体力向上の推進	○体育の授業では、特に三学期に持久走の実施により、体力を向上させる取り組みができた。継続して行うことで、体力の向上を実感できた生徒も多い。同時に体力向上の意義や必要性を指導することにもつながった。 ○身体測定等で、自分の発育・発達に気付く機会となった。 ○昨年に続いて、長期休業中の生活リズムチェックなどの生活習慣改善に取り組み、希望者に保健指導を行った。	A	○自分の体力の向上のために努力していると答えている生徒が10%増えており、保護者から見た数値も9%増えている。夏場以外の体育授業では、毎回導入時に走ることを行った。しかし、ほとんどの生徒は活動できているが、全く活動できていない生徒もいるのが現状なので、運動が全くできていない生徒にどう、運動を実践させていくかが課題である。 ○自らの体調や体力だけでなく、仲間の体調や体力にも気付き、望ましい関わり方ができるよう指導していく。 ○生活習慣改善は家庭との連携も課題になるため、様々な手立てで発信する必要がある。	A	
	○安全教育の充実	○「交通マナーの指導の徹底」という項目では、95%の生徒が今年度の交通指導を肯定的に見ていた。保護者においては、昨年に引き続き97%を越える保護者が交通指導体制を肯定的に捉えていた。 ○避難訓練を2回実施した。10月には、火災を想定した避難訓練を実施し、グラウンドに避難した。１月には、地震を想定した避難訓練を計画した。１次避難の訓練はできたが、抜き打ちでの訓練の実施が、インフルエンザのため延期となった。	A	○大半の生徒・保護者が交通マナーを遵守していると回答している一方、地域から交通マナーに対するご意見をいただいたこともあり、朝の交通指導だけでなく、放課後の交通指導も引き続き実施していく。グリーンベルトを学校周辺で引いていただき、本校独自の安全な通学を実施して、状況を見ていく。 ○災害を想定した避難訓練を実施していく上で、関係機関や保護者と連携した訓練も計画していく。	A	
④特別活動の推進	○生徒会活動・学級活動の充実	○生徒総会では、事前に各クラスで話し合い、生徒会役員・クラス代表が集まり、学校生活や非行について話し合った。また話し合った内容を元に、生徒総会で全校生徒にプレゼンを行った。 ○学級では、一人一役で1年間責任をもって取り組もうとする姿が多く見られた。 ○生徒会役員を中心に「笑顔の種プロジェクト」をより進展させるため、生徒総会で全校生徒に呼びかけた。 ○リーダー育成のため、生徒会を中心にリーダー研修会を持ち、生徒自身の自覚を高めるよう取り組んだ。 ○阿波市中学校生徒会交流会に参加し、各校の取り組みを互いに紹介し、意見交換を行った。	A	○生徒は、教師のサポートのもと主体的に活動に取り組むことができた。生徒会担当や学級担任まかせにならないように、全教職員の目で全生徒を見守っていける体制を更に構築していくように務める。	A	○生徒が主体的に活動する生徒会活動は素晴らしい。中学校同士の交流会も続けて欲しい。 ○ふるさとクリーンデーやペットボトルキャップの回収など、生徒のボランティア活動参加への意欲を感じた。
	○環境・福祉ボランティア教育の推進	○ふるさとクリーンデーに参加する生徒も多く地域貢献活動に取り組んでいる。 ○緑化推進委員会では花の苗植えや、環境美化に努めた。 ○人権ボランティア委員会を中心に毎年取り組んでいるペットボトルキャップの回収では、27kgを集めることができ、生徒たちの意欲向上にもつながった。 ○清掃に関する項目では、教師の肯定的な評価が84%(昨年53%）と大きく向上している。	B	○生徒会を中心に各学級でキャップやプルタブ集めの意義を伝えていく。 ○学校や地域の環境美化に努める。 ○日々の清掃活動を充実させ、時間いっぱい清掃に取り組む生徒を育成する。	A	
⑤研修の充実	○校内研修の工夫 改善と計画的な実施	○各学年で人権学習の大研を実施した。授業後の研究会も積極的な意見が数多く出て、充実したものとなった。 ○昨年に続いてスクールカウンセラーを講師に招き、職員研修を実施した。 ○毎月定期的にメンター研修を行うことができた。 ○学年主任を中心に、特に生徒指導に関して、問題行動への対応、予防等についての話し合いができ、実際の指導に生かすことができた。また日々の雑談のなどの中でも生徒指導などの話し合いや先輩教師からの助言も見られた。	A	○生徒たちの生活の改善に反映させられるような大研、研修内容にしていく必要がある。 ○メンター研修で話し合われた内容も学校運営や学年、学級経営に生かせられるような体制づくりを行う。 ○先生方の多忙感を改善するために、　研修の仕方やテーマを精選する必要がある。	A	○「学び合い週間」を効果的に活用し、これからも授業力・指導力向上に努めて欲しい。
⑥開かれた学校教育の推進	○家庭・地域社会 関係機関との連携	○感染拡大防止のため公開中止となったり予定を変更した行事もあったが、体育祭、文化祭では可能な範囲で保護者の方に生徒や学校の様子を見てもらうことができた。 ○地域ボランティアの協力で、「朝の読み聞かせ」を実施することができた。 ○市子育て支援課や阿波市教育支援センターなど、各関係機関との連携を図ることができた。 ○学校HPを定期的に更新し、学校行事などの様子を掲載した。 ○全学年で学年通信を定期的に発行し、保護者への情報発信を行った。	A	○今後も感染状況を考慮しながら学校行事を計画し、できるだけ公開できるようにする。 ○各関係機関や校区内小学校との連携をさらに密に行う。 ○ホームページや学年通信を活用し、効果的に情報公開を行う。	A	○学校行事の実施で、保護者も参加でき、学校の様子を見ることができたのはよかったと思う。 ○勤務時間など、職場環境の改善について、今後の取り組みに期待したい。 ○学校運営協議会の委員について、任期を決めてほしい。
	○業務改善の推進と職場環境の改善	○統合型業務支援システムの活用が徐々にスムーズに行えるようになり、特に進路関係文書の印刷は便利であった。 ○一部の部活動では、部活動指導員など、外部人材を活用することで職員の負担軽減につなげることができた。また平日２時間、休日３時間程度の練習時間を徹底し、平日の下校時間も統一した。 ○業務のスリム化・職員の負担感の軽減のため、週１回職員朝礼のない日を設定した。 ○校内での配布文書を減らすためグループウェアを活用し連絡した。	B	○出退勤管理システムを活用し、タイムマネジメントを正確に推進する。 ○学校行事の精選、会議のスリム化を行い、業務の軽減を図る。 ○地域の外部人材を活用し、部活動等の負担軽減を図る。 ○校務分掌だけでなく教科での負担も確認しながら、職員の負担を軽減していく。 ○業務のスリム化に取り組んでいるものの、コロナの5類移行に伴う学校行事の復活による多忙化などもあり、思い切った慣例や行事の見直しなど、引き続き取り組む必要がある。	B	○「手に負えないときは保護者へ」という意見は、保護者に責任感があってよい、と思う。